

波山陶芸の魅力を探る～茶湯のうつわ

出品目録

作品名	制作者	制作年	所蔵館
波山の茶道具			
彩磁絞手茶碗	板谷波山	昭和時代中期	板谷波山記念館
天目茶碗	板谷波山	昭和時代前期	板谷波山記念館
天目茶碗	板谷波山	昭和時代前期	板谷波山記念館
天目茶碗	板谷波山	昭和時代前期	板谷波山記念館
茶杓	板谷波山	昭和20～30年代	板谷波山記念館
鉄釉茶入	板谷波山	昭和20年代	板谷波山記念館
窯変天目茶碗	板谷波山	昭和時代前期	板谷波山記念館
青磁蓮華文水差	板谷波山	大正時代前期	板谷波山記念館
彩磁芭蕉蛙文水差	板谷波山	1898～1903（明治31～36）年	板谷波山記念館
帆立貝水差	板谷波山	明治時代末期～大正時代前期	板谷波山記念館
青磁袴腰香炉	板谷波山	昭和10～20年代	板谷波山記念館
葆光白磁香炉 「忠勇義烈」文字	板谷波山	1937（昭和12）年	板谷波山記念館
蛋壳磁香炉	板谷波山	昭和20～30年代	板谷波山記念館
マジョリカ写蕪文皿 [銘玉蘭]	板谷波山	明治時代末期	板谷波山記念館
マジョリカ写銀杏葉文皿 [銘玉蘭]	板谷波山	明治時代末期	個人蔵
菓子皿 九谷焼			板谷波山記念館
彩磁藤文花瓶	板谷波山	明治時代後期	板谷波山記念館
彩磁花卉文香炉	板谷波山	昭和20年代	板谷波山記念館
辰砂釉瓢形花瓶	板谷波山	明治時代末期～大正時代初期	板谷波山記念館
淡黄磁捻耳香炉	板谷波山	昭和20年代	個人蔵
壽字文香爐	板谷波山	昭和時代前期	板谷波山記念館

単色釉の世界

葆光白磁唐草花瓶	板谷波山	大正時代後期～昭和時代初期	板谷波山記念館
結晶釉花瓶	板谷波山	1935（昭和10）年頃	板谷波山記念館

結晶釉瓢形花瓶	板谷波山	明治時代後期	板谷波山記念館
仙桃図	板谷波山		板谷波山記念館
淡黄磁仙桃文花瓶	板谷波山	昭和10年代	板谷波山記念館
辰砂釉花瓶	板谷波山	1913（大正2）年	板谷波山記念館
辰砂釉延寿文花瓶	板谷波山	1940（昭和15）年頃	板谷波山記念館
辰砂釉花生	板谷波山	大正時代初期	板谷波山記念館
ランプ	板谷波山	1910年代	板谷波山記念館
仙桃図	板谷波山		板谷波山記念館
霊芝卓布	板谷波山		板谷波山記念館

参考展示

唐草文壺（生素地）	板谷波山	1962（昭和37）年	板谷波山記念館
彩磁落葉文花瓶 陶片	板谷波山		板谷波山記念館
淡黄磁枇杷文花瓶 陶片	板谷波山		板谷波山記念館

ごあいさつ

波山陶芸の魅力に、そのみずみずしさが 있습니다。今朝咲いたばかりの草花、あるいは畑でもぎりたての果実のようなつややかさ。それは、まさにはつつとしたいのちの輝きというべきものでしょう。

このたびの展覧会では、とくに波山の茶道具を選んでみました。波山は日々作陶の仕事に入る前、抹茶を嗜んだといわれています。精神を落ち着かせ、清らかな気持ちで作品の制作に向かったのだと思います。

波山は以下のような談話を残しています。

私は野花が好きです。高原に咲く清純な花の姿に無限の愛を感じます。大自然の大自然の中で育った野生の花の香り、瑞々しい草茎の美しさにも心ひかれます。

いまから数十年前の話ですが、金沢市の某旅館に泊まったことがありました。宿の主人は人一倍の野花を愛する趣味の人でした。

夏の朝、未明に起きて、遠くはなれた山里まで出かけ、桔梗や女郎花を摘んできて、床の間に飾ってくれたのです。朝露を宿したふくいくたる花の香りが部屋一杯にみなぎっていました。

こうした清々しい気分のなかで、朝茶のもてなしをうけた印象は、いつまでも記憶に残っています。

（「日ごろの思い」『萌春』昭和35年3月）

波山の侘びの美意識の世界をご堪能いただければ幸いに存じます。